S57-1 「アンケート調査に基づく現行実務実習の評価と課題」

伊東 明彦（明治薬大）

平成 25 年度、薬学教育協議会は文部科学省委託事業として病院・薬局実務実習を含めた 6 年制薬学教育が当初の目的を達成しているか検証・評価して問題点を洗い出すとともに、改善に向けて広く意見を収集することを目的にアンケート調査を実施した。6 年制課程卒業後、医療提供施設に勤務する薬剤師とその部門長、認定実務実習指導薬剤師、さらに大学の学部長・教務部長および臨床系・実務家教員を調査対象として、病院 855 施設、薬局 693 施設、74 大学に依頼した。回答は 6 年制課程卒業薬剤師 800 名、部門長 666 名、認定実務実習指導薬剤師 700 名、69 大学から得られた。解析結果からみられた大学での事前学習のあり方、指導に関わる薬剤師の指導能力や指導状況、施設間の実習内容の相違、施設の負担度の大きさ、大学と実習施設との連携のあり方、6 年制課程卒業薬剤師の資質などの病院・薬局実務実習の現状と課題を紹介する。

The Council on Pharmaceutical Education of Japan carried out a questionnaire survey about the current 6-year pharmacy education system as a project commissioned by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology in 2013. The purpose of this project was to verify the achievement level of the initial objective of the 6-year pharmacy education system and to collect opinions for the improvement of problems about the 6-year pharmacy education system including hospital and pharmacy practical training. The survey included graduate pharmacists of the current 6-year pharmacy education system, section managers and certified training guidance pharmacists of medical facilities, and academic dean/ academic affairs directors and clinical-based university staff members. The questionnaire was forwarded to 855 hospital facilities, 693 pharmacy facilities and 74 universities. Replies were given by 800 of the 6-years system graduate pharmacists, 666 of the section managers, 700 of certified training guidance pharmacists and 69 of the universities. I present the situation and issues about the hospital and pharmacy practical training such as training contents, university pre-education modes and training guidance situation.

6年制薬学教育の現状調査結果から見た
実務実習の課題と改善に向けて

アンケート調査に基づく
現行実務実習の評価と課題

明治薬科大学　伊東明彦

文部科学省医療人養成推進等委託事業

病院・薬局実務実習を含めた6年制薬学教育が当初の目的を達成しているか検証・評価して、問題点を洗い出し改善、対応を検討する目的で調査

（薬学教育協議会　薬学教育調査・研究・評価委員会）

6年制薬学教育開始されてから囁かれる実務実習に関する問題

施設間の相違

- 指導薬剤師の指導方法
- 医療者としての認識
- 実習内容
- 実習体制

etc

大学間の相違

- 評価方法
- 教員の実務実習に関する認識
- 事前教育および相談・指導体制

etc

学生間の相違

- 実習態度（無断欠席、積極性の欠如、　マナー等）
- 学力・能力
- 体調不良（メンタルも含む）

etc

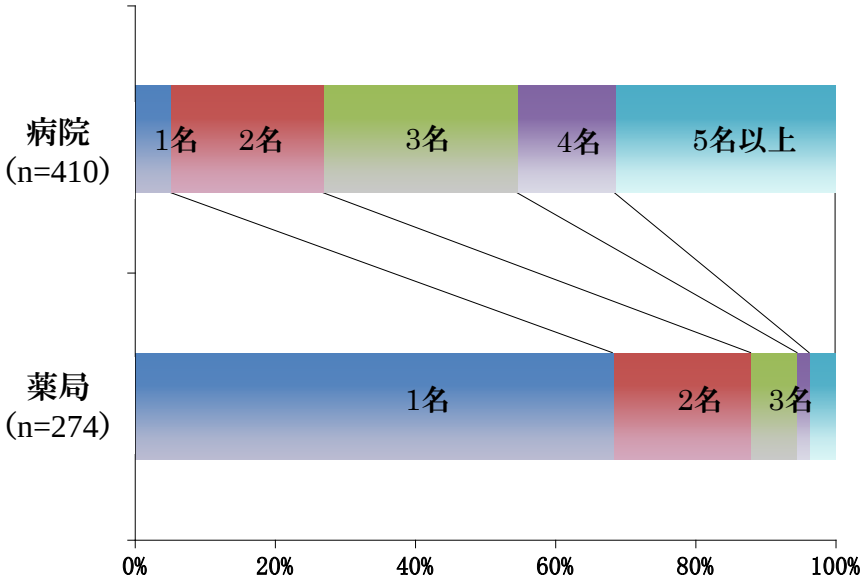
6年制薬学教育で養成した薬剤師及び教育体制に関する調査

調査対象の回答数の内訳

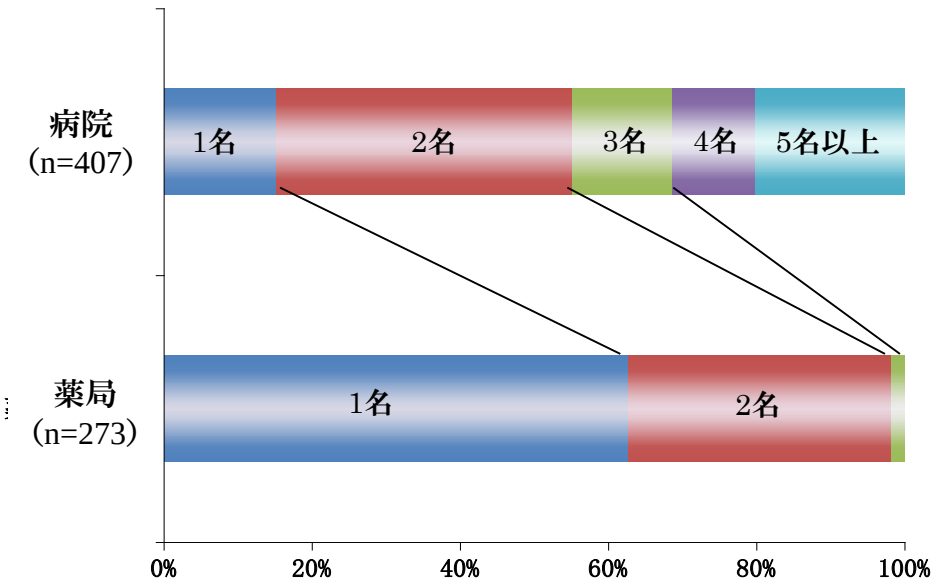
地区名	施設部門長（薬局/病院）	認定指導薬剤師（薬局/病院）	6年制課程卒業薬剤師	大学
北海道地区	32（23/9）	21（12/9）	40	3
北陸地区	14（5/9）	10（4/6）	14	2
東北地区	68（22/46）	69（23/46）	68	7
東海地区	65（10/55）	66（12/54）	82	6
中国・四国地区	54（18/36）	57（22/35）	50	10
近畿地区	131（34/97）	113（28/85）	160	12
九州・山口地区	40（12/28）	28（8/20）	48	8
関東地区	249（121/128）	251（132/119）	256	19
不明	13（6/7）	85（37/48）	82	2
合計	666(251/415)	700(278/422)	800	69

6年制課程卒業薬剤師の有効回答者の背景

	回答者数
性別	770
男性	273（35.5%）
女性	497（64.5%）
卒業年度	773
平成24年3月	370（47.9%）
平成25年3月	395（51.1%）
平成24年9月	8（1.0%）
就職先	773
薬局	258（33.4%）
医薬品販売業	2（0.2%）
病院・診療所	507（65.6%）
その他（医薬品卸売業、公務員等）	6（0.8%）
転職の有無	772
最初の就職先	758（98.2%）
転職後の就職先	14（1.8%）



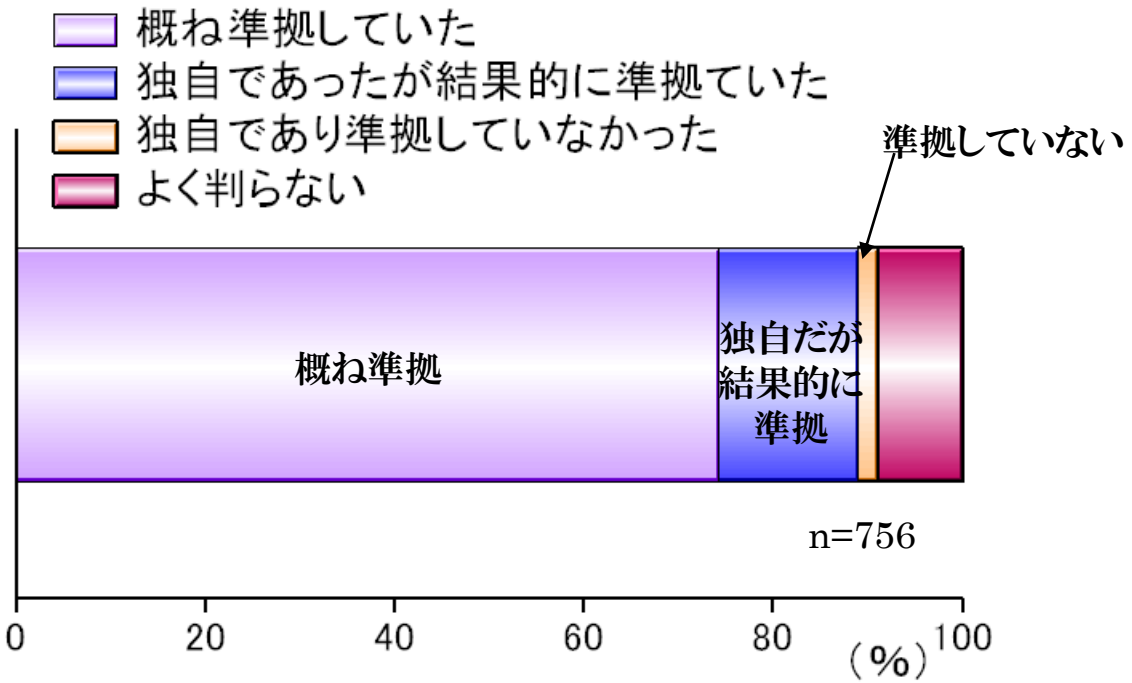
認定実務実習指導薬剤師の人数



Ⅰ期あたりの平均実習生受入れ人数

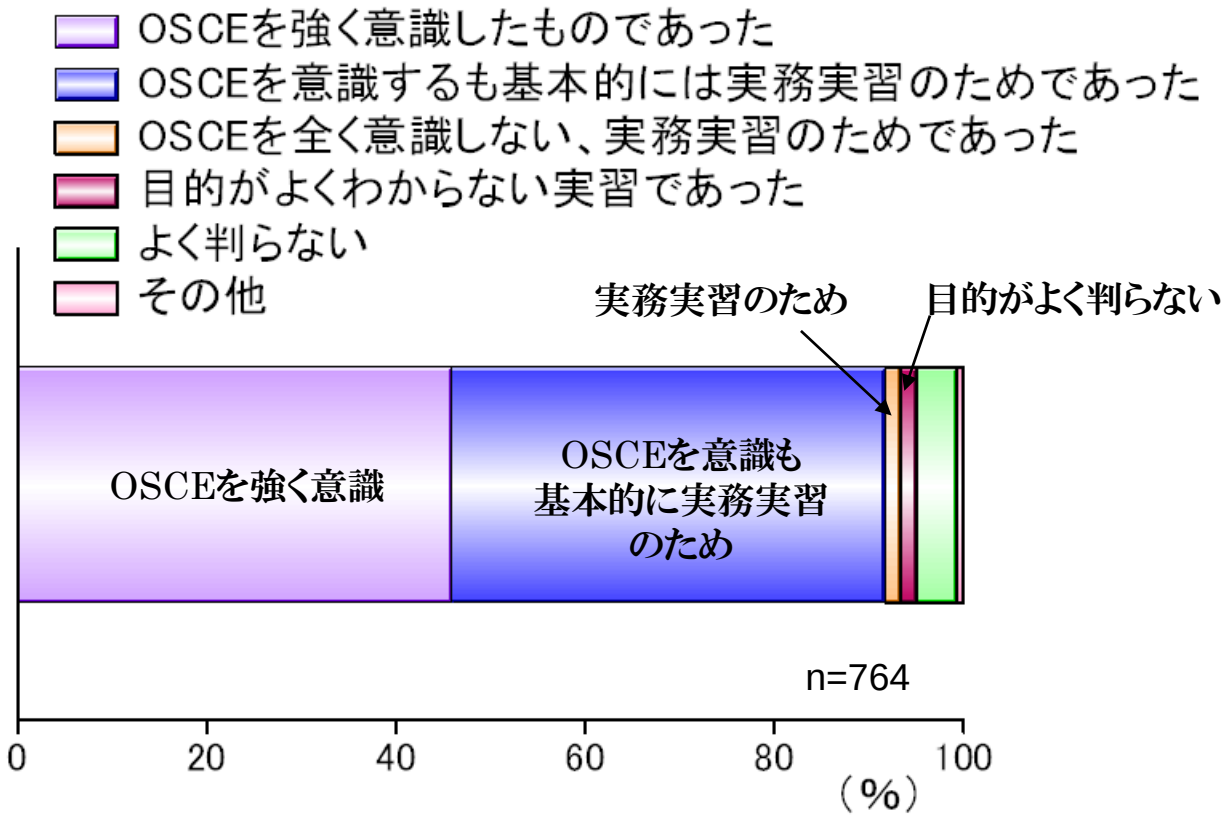
回答した実務実習施設の状況

6年制課程卒業薬剤師



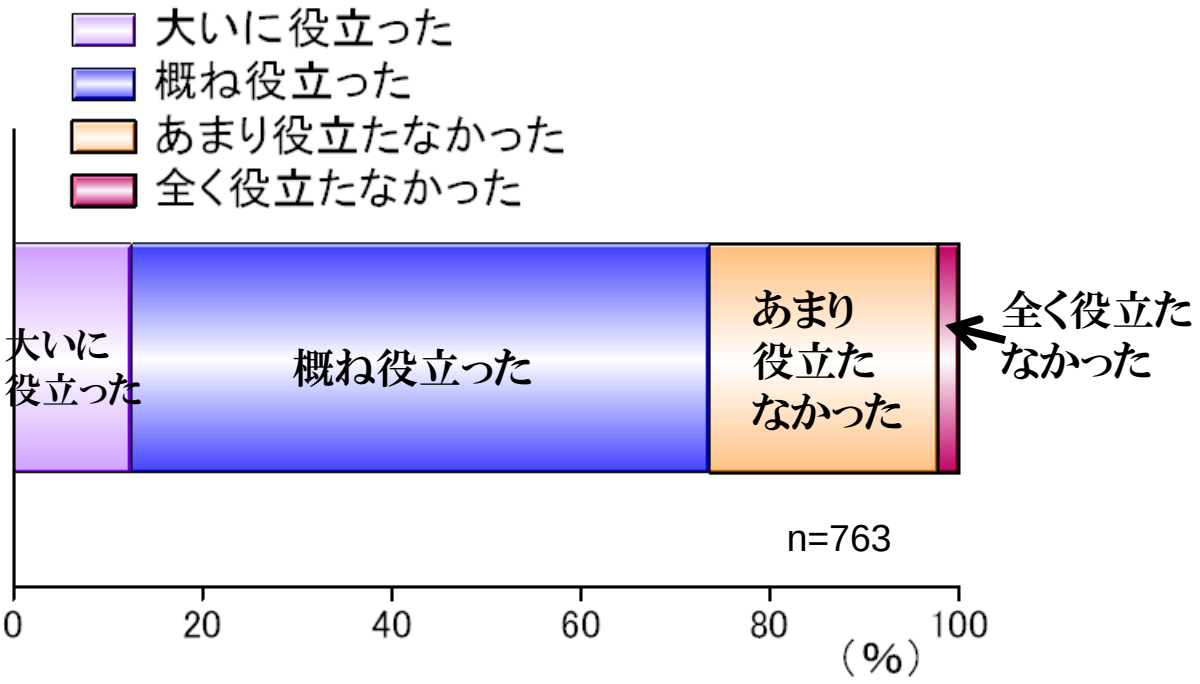
大学における実務実習事前学習のモデル・コアカリキュラムの準拠状況

6年制課程卒業薬剤師



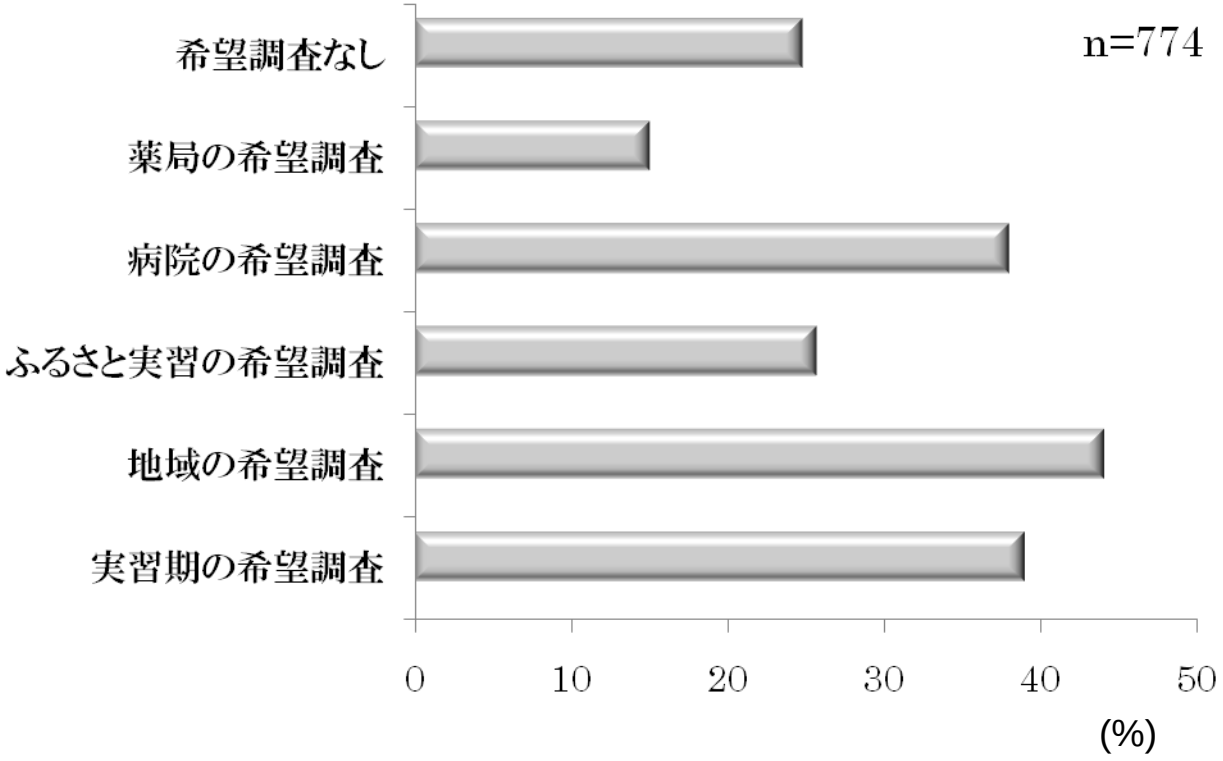
大学における実務実習事前学習はどのようなものであったか

6年制課程卒業薬剤師



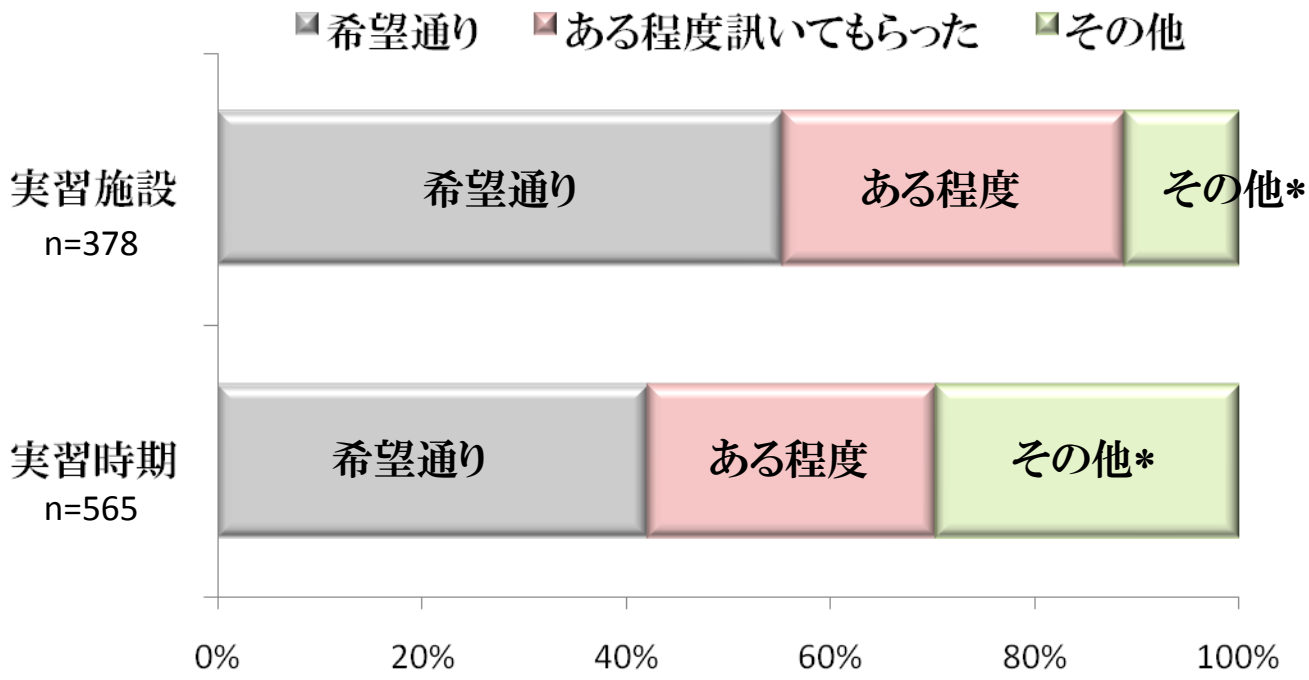
実務実習事前学習は病院・薬局実務実習に役立ったか

6年制課程卒業薬剤師



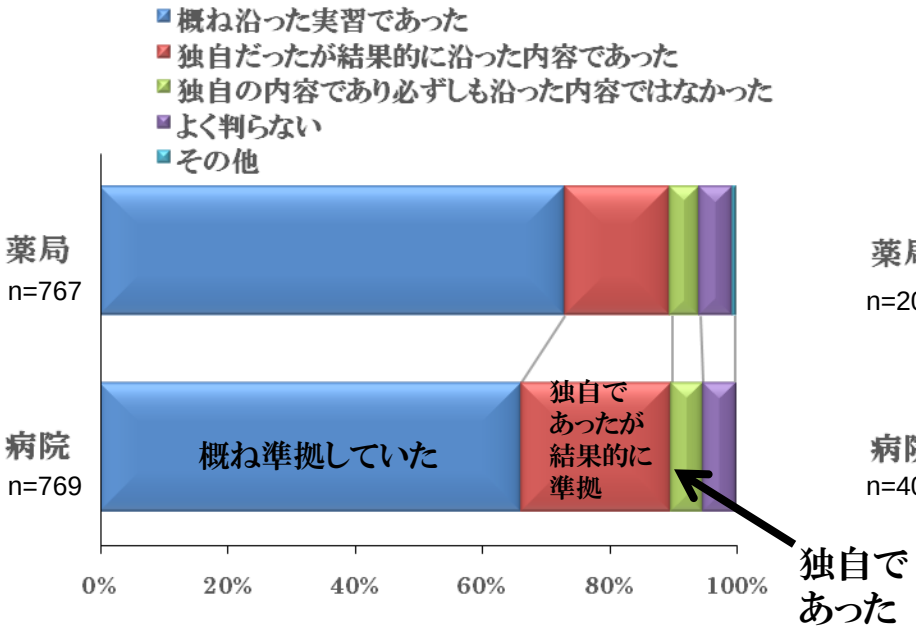
実務実習に先立って実習時期・地域や施設の希望調査はあったか

6年制課程卒業薬剤師

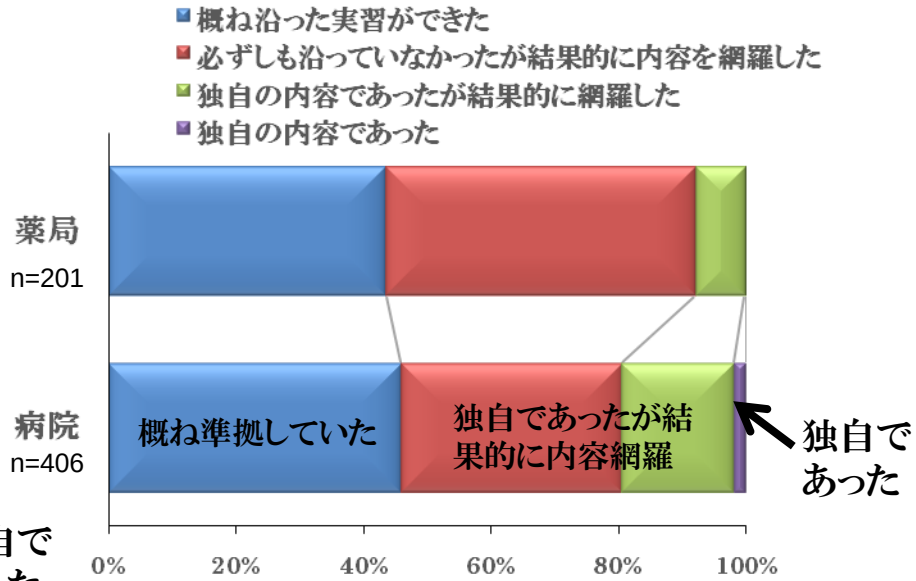


*希望調査がなかった
希望通りでなかった
等

実務実習に先立って実習時期・地域や施設の希望はどの程度反映されたか



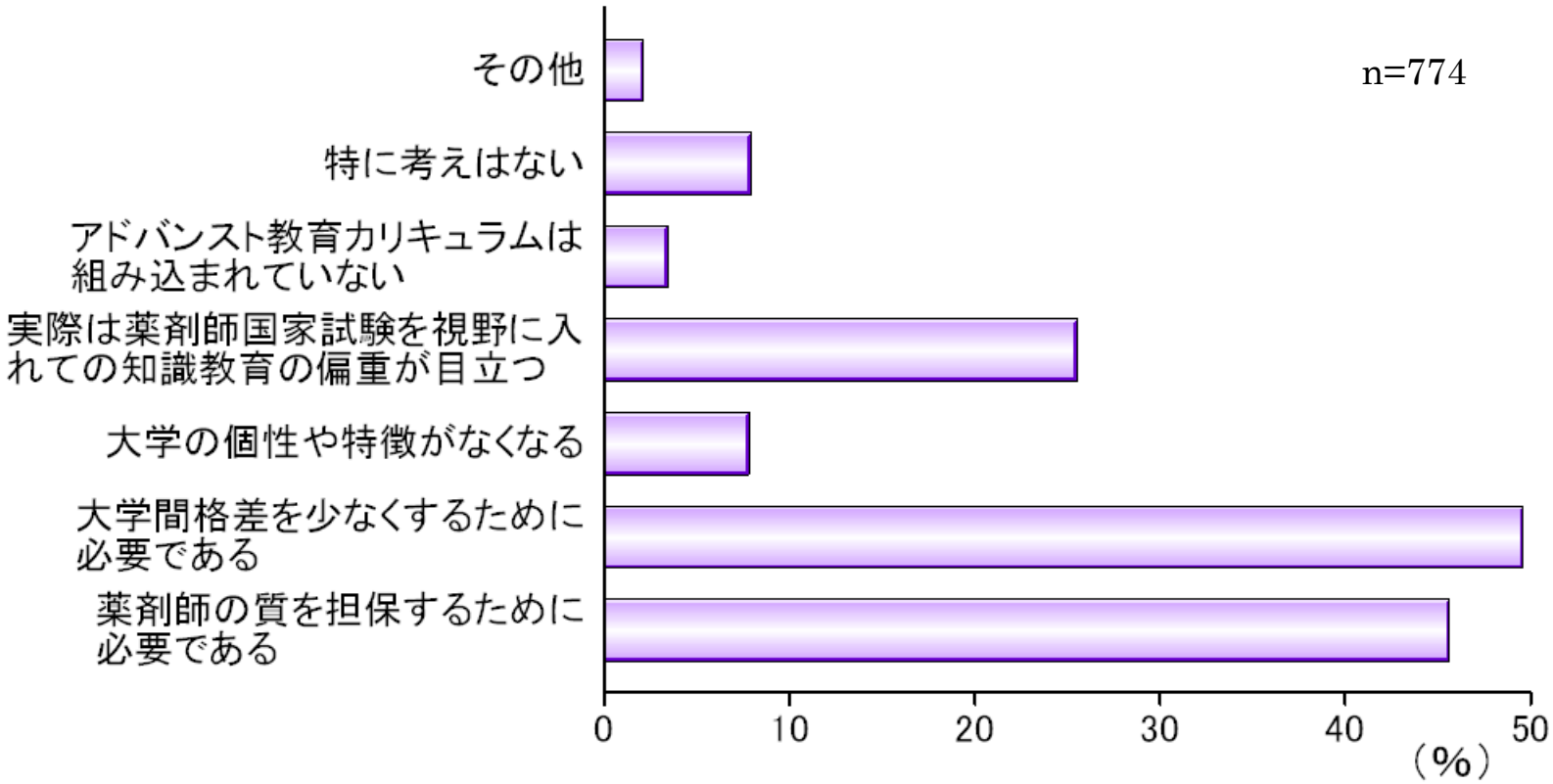
6年制課程を卒業した薬剤師



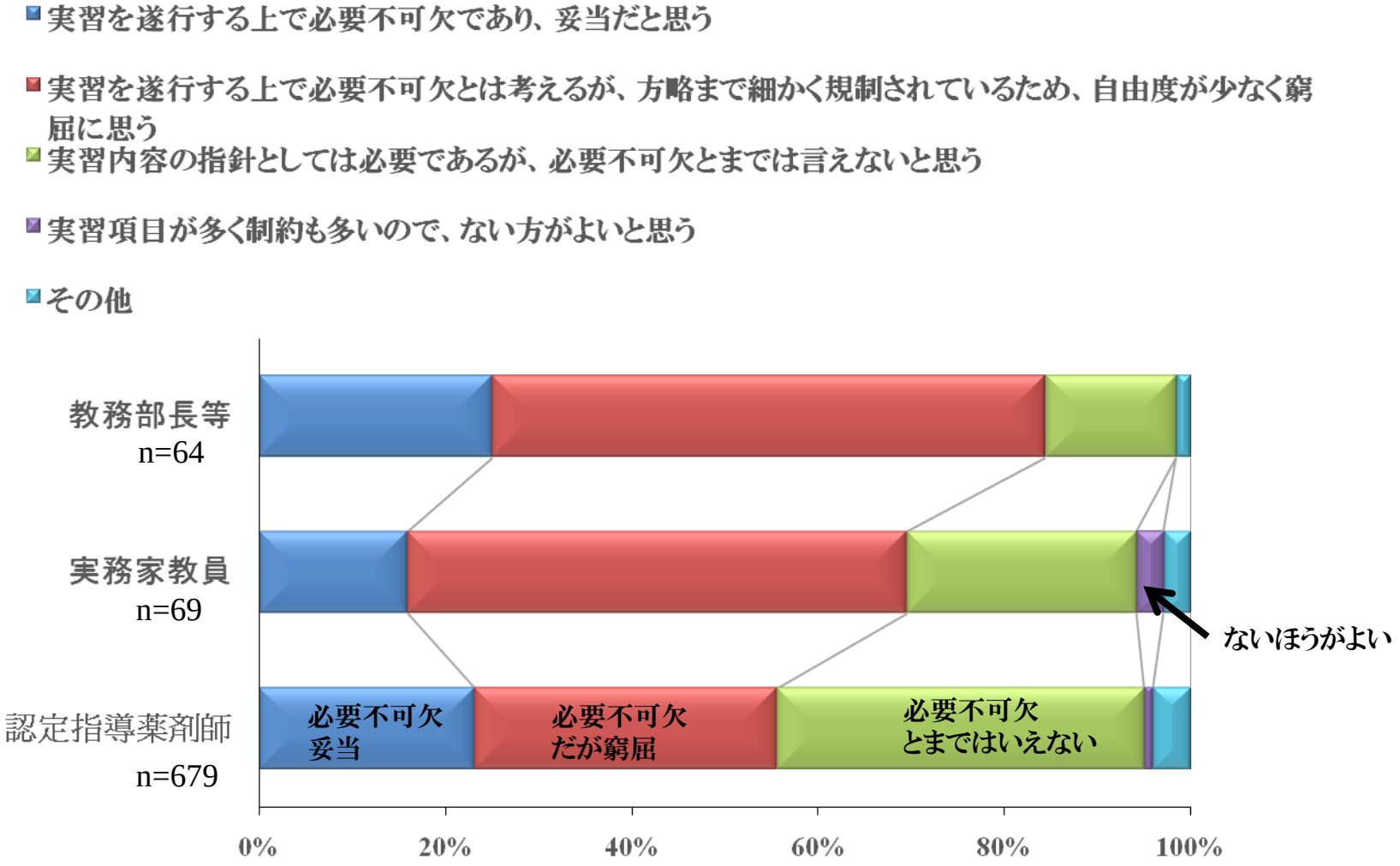
認定実務実習指導薬剤師

病院・薬局実務実習のモデル・コアカリキュラムの準拠状況

6年制課程卒業薬剤師

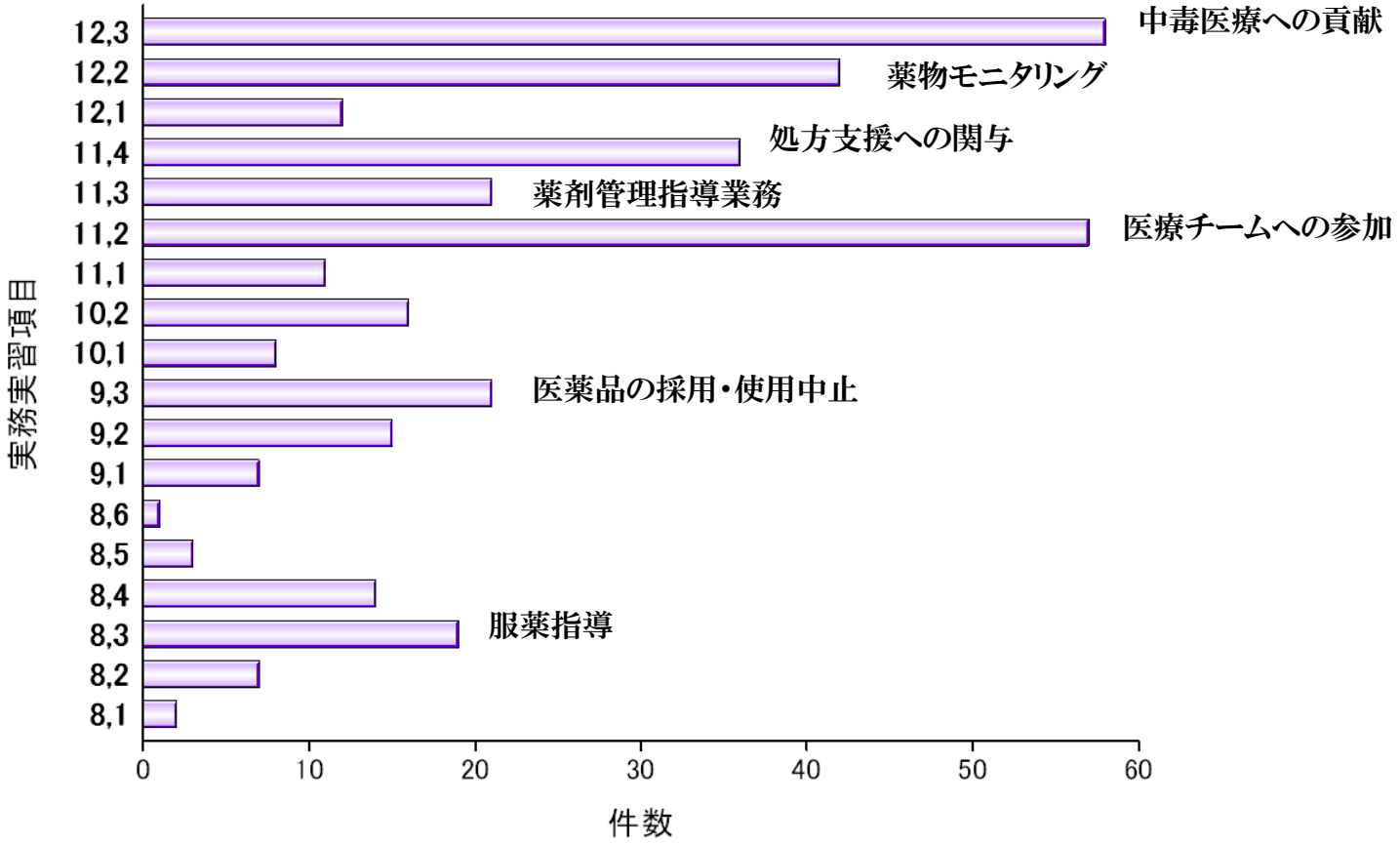


モデル・コアカリキュラムに基づく教育方法に対する意見

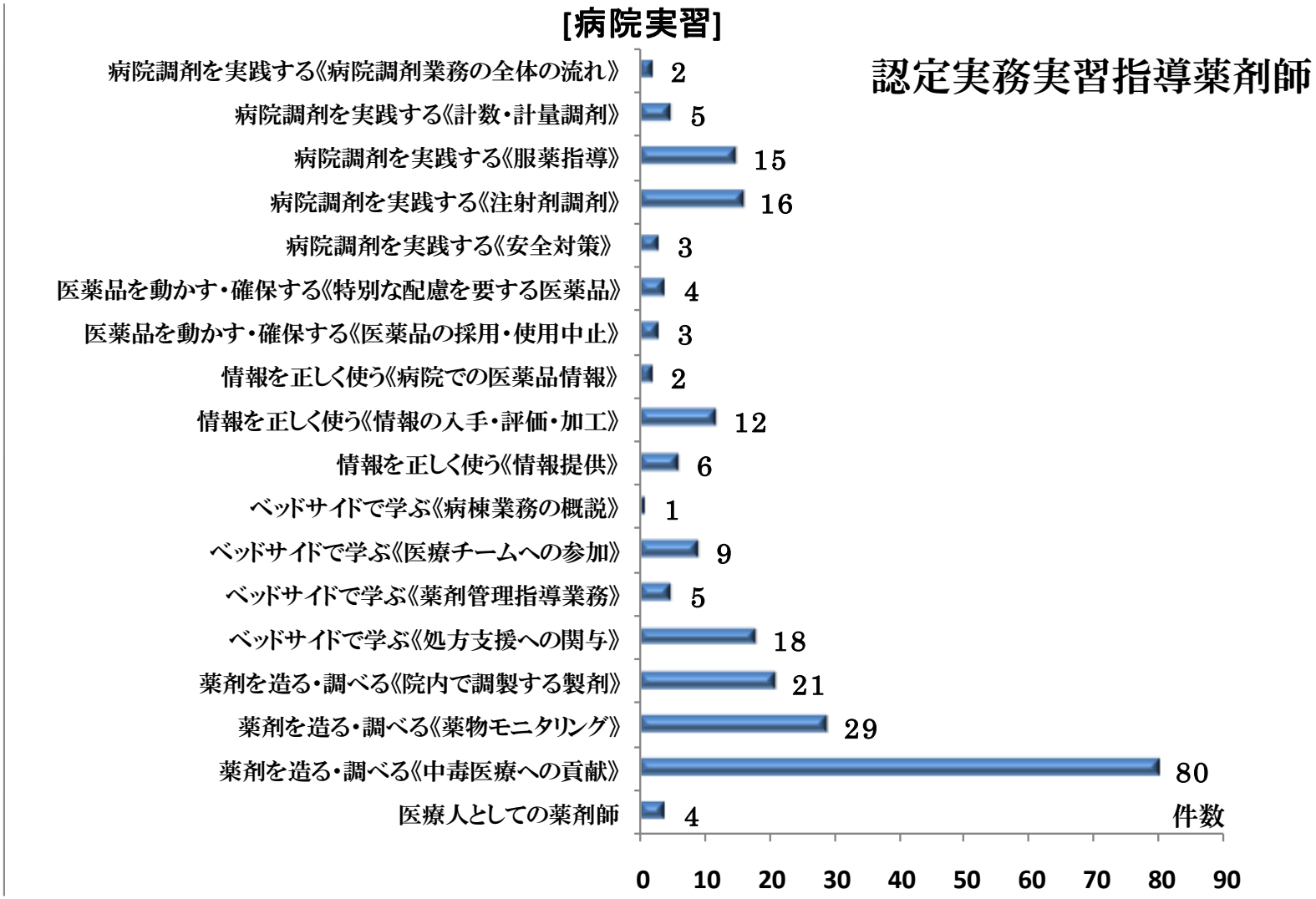


実務実習モデル・コアカリキュラムに関する意見の比較

6年制課程卒業薬剤師



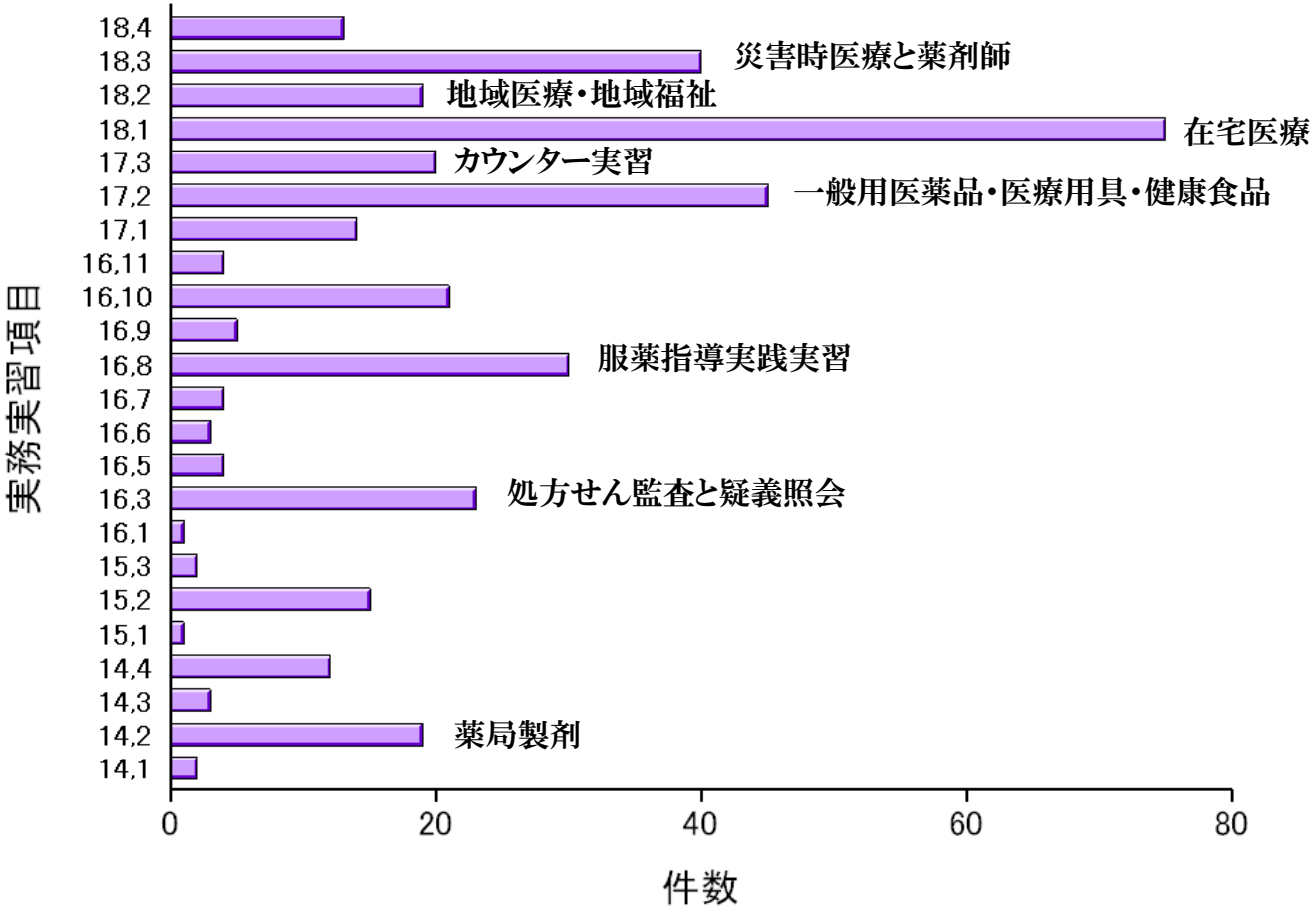
病院実務実習において欠けていた項目



モデル・コアカリキュラムのうち十分実施できなかった実習項目（病院実習）

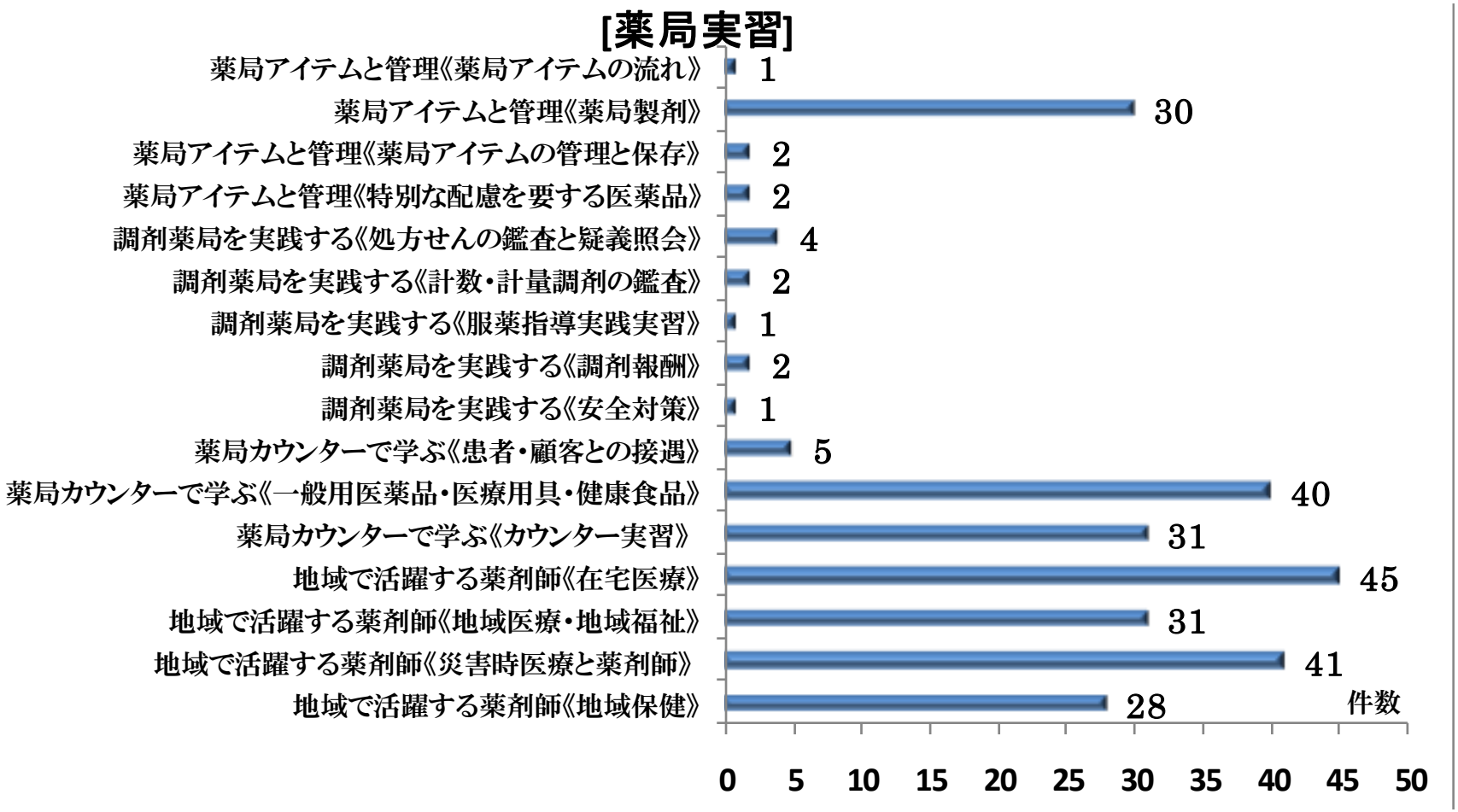
十分実施できなかった実習項目も多く挙げられ、その対応は「講義のみ」で行う施設と、「他施設へ依頼」や「モデルを用いてロールプレイ」など実習型で行う施設が混在している。

6年制課程卒業薬剤師



薬局実務実習において欠けていた項目

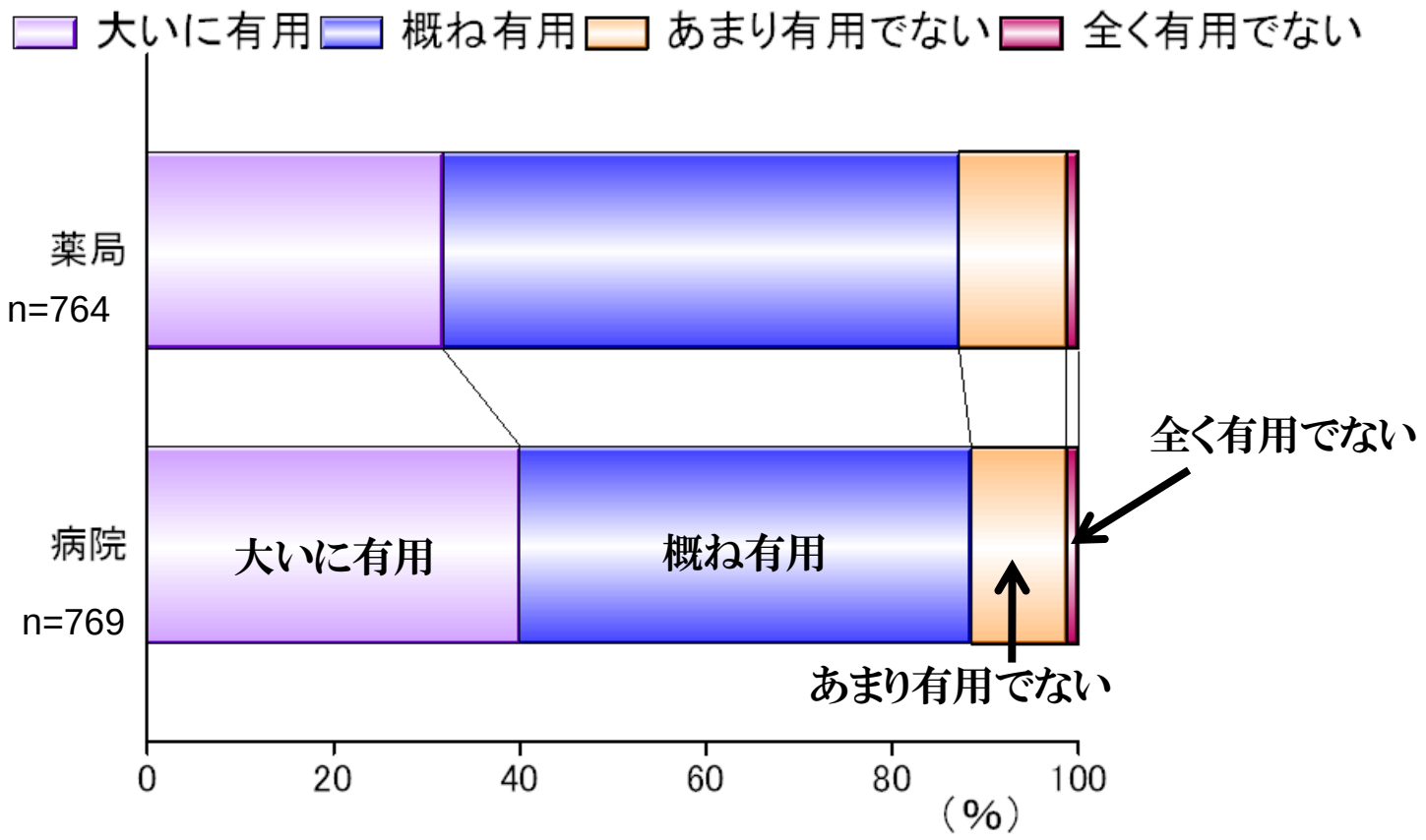
認定実務実習指導薬剤師



モデル・コアカリキュラムのうち十分実施できなかった実習項目（薬局実習）

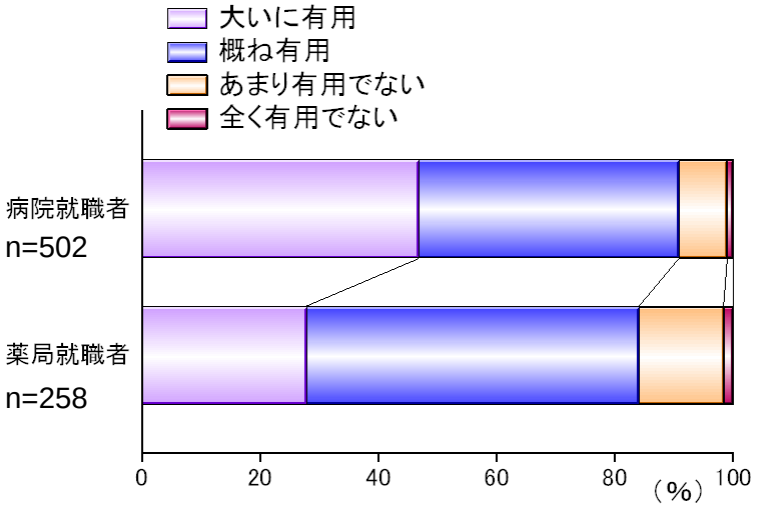
十分実施できなかった実習項目も多く挙げられ、その対応は「講義のみ」で行う施設と、「他施設へ依頼」や「モデルを用いてロールプレイ」など実習型で行う施設が混在している。

6年制課程卒業薬剤師

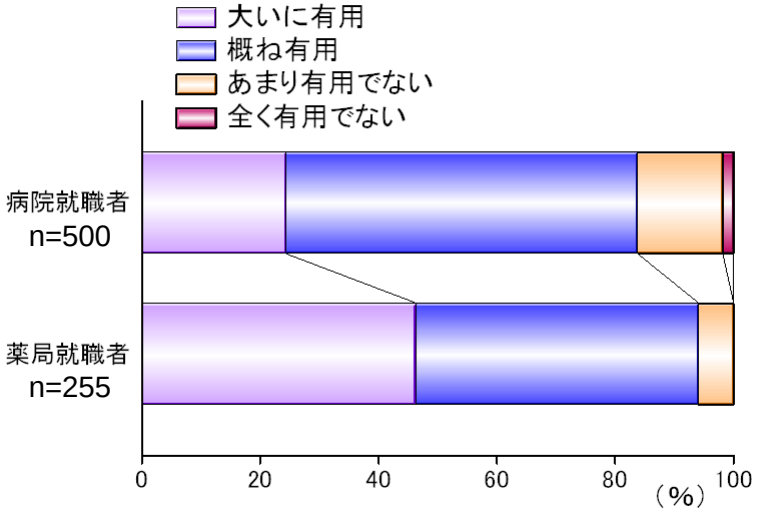


現在の業務を遂行するうえで実務実習は有用であったか

現在の業務を遂行する上での病院実務実習は有用であったか

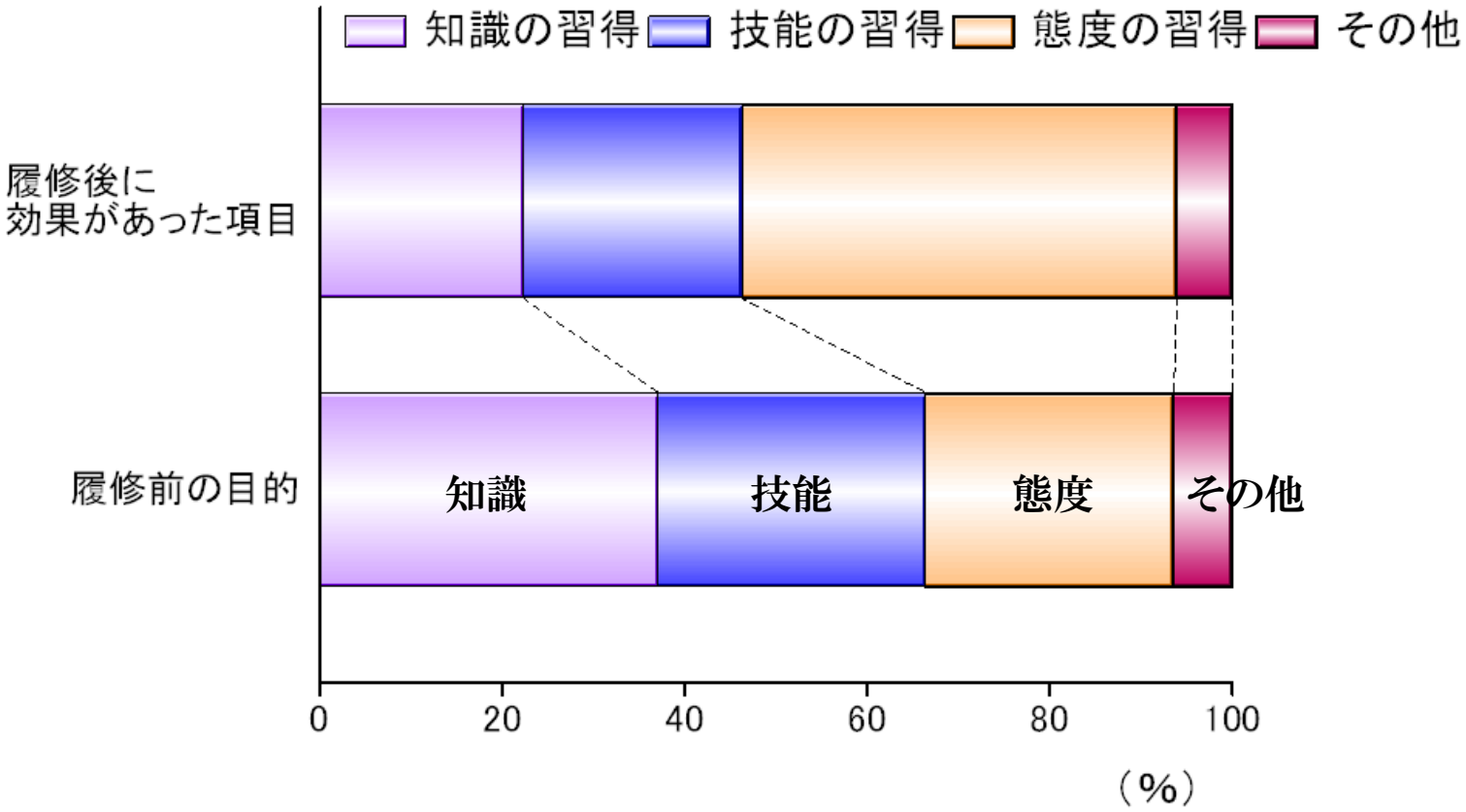


現在の業務を遂行する上での薬局実務実習は有用であったか

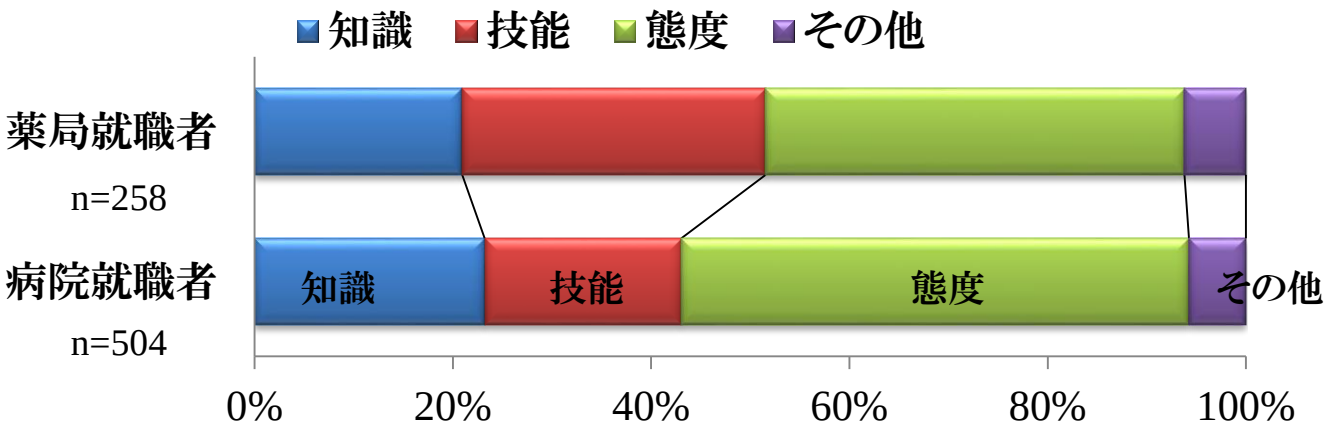


現在の業務を遂行するうえで実務実習は有用であったか

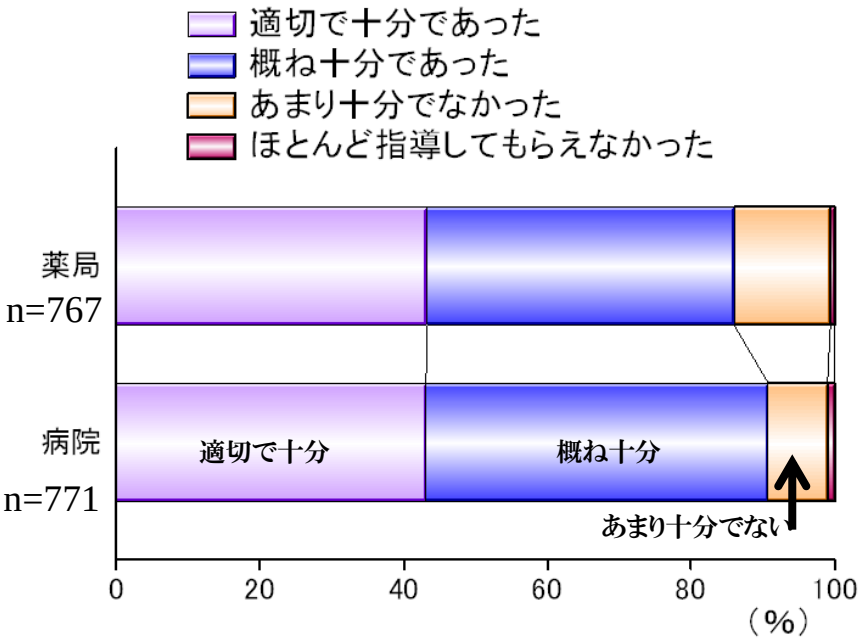
6年制課程卒業薬剤師



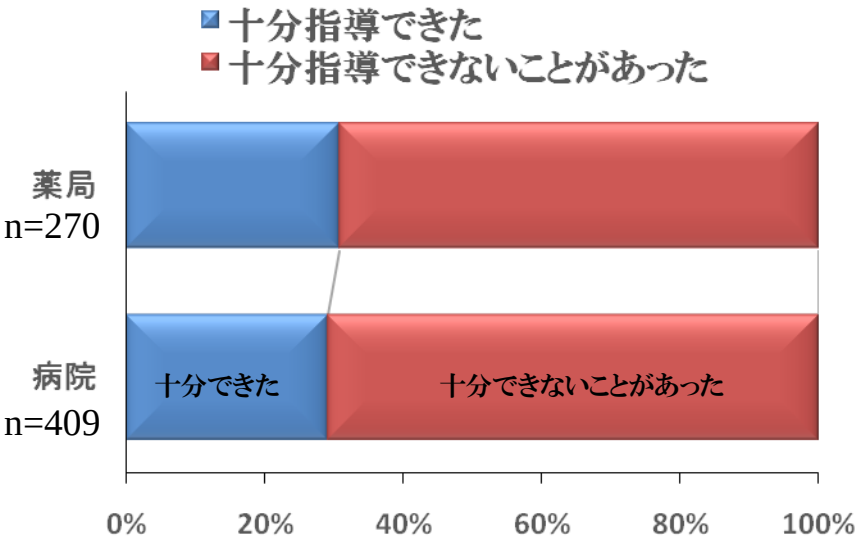
実務実習履修前の目的と履修により効果があった項目



実務実習履修後に最も効果があったと思う項目



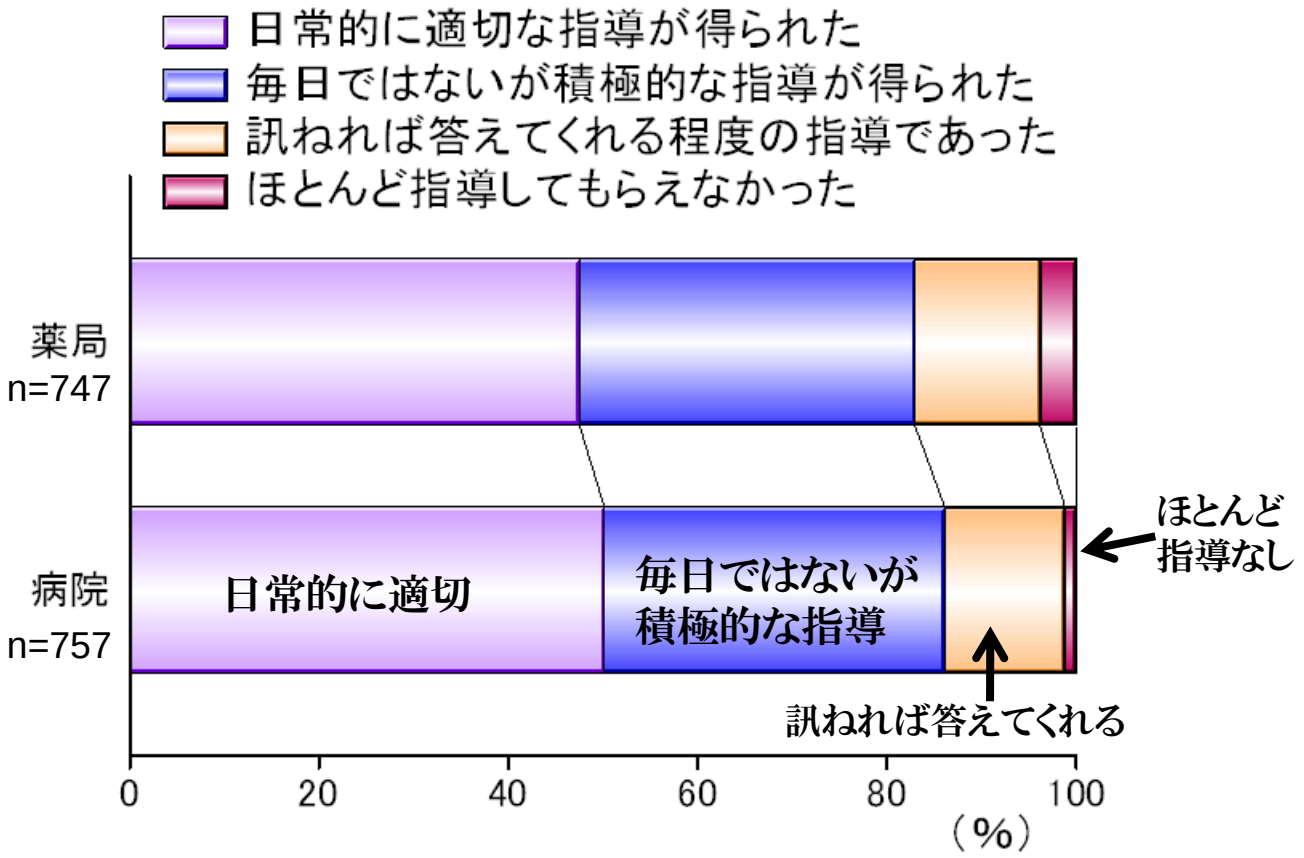
6年制課程を卒業した薬剤師



認定指導薬剤師

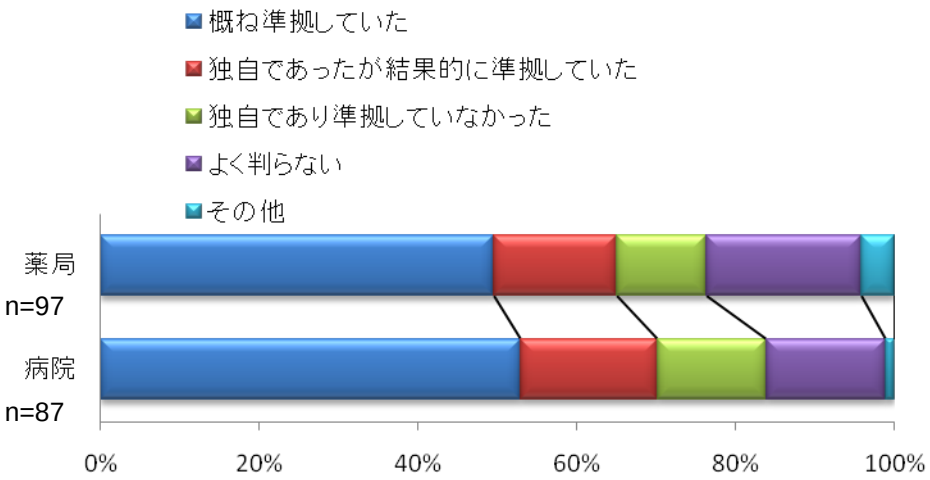
実務実習における指導薬剤師の指導状況の比較

6年制課程卒業薬剤師

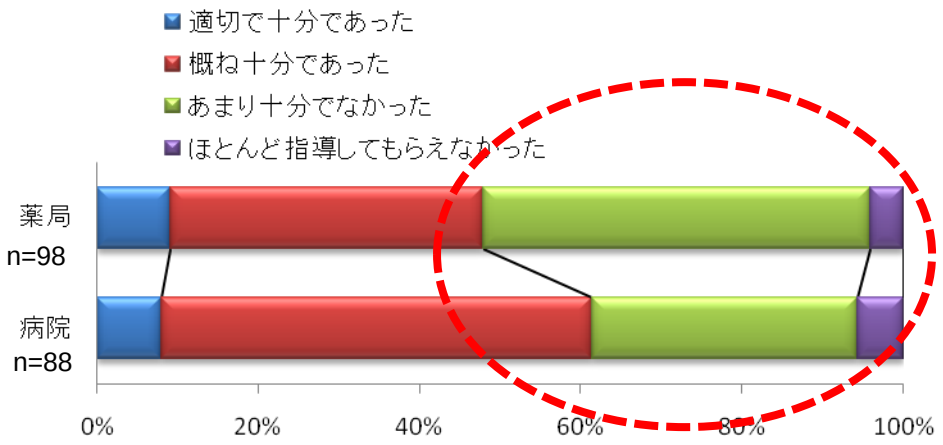


認定指導薬剤師以外の薬剤師からの指導はあったか

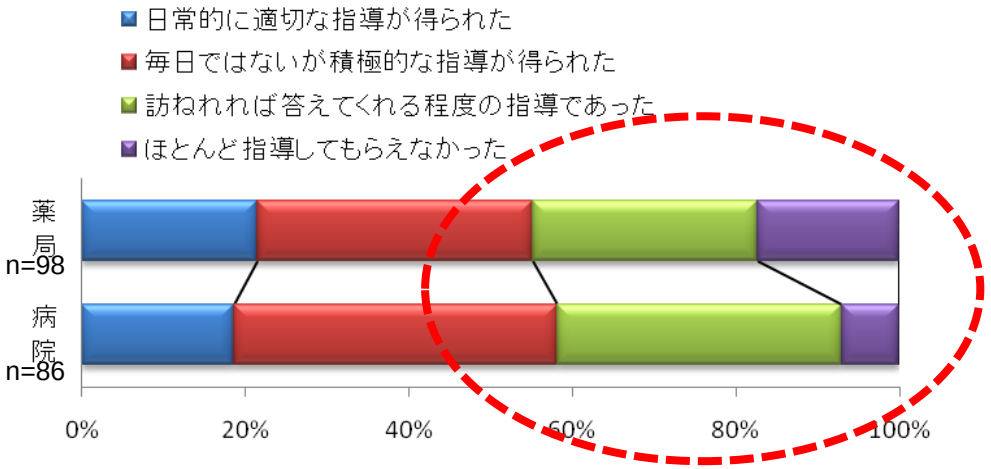
モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習であったか



指導薬剤師の指導は適切であったか

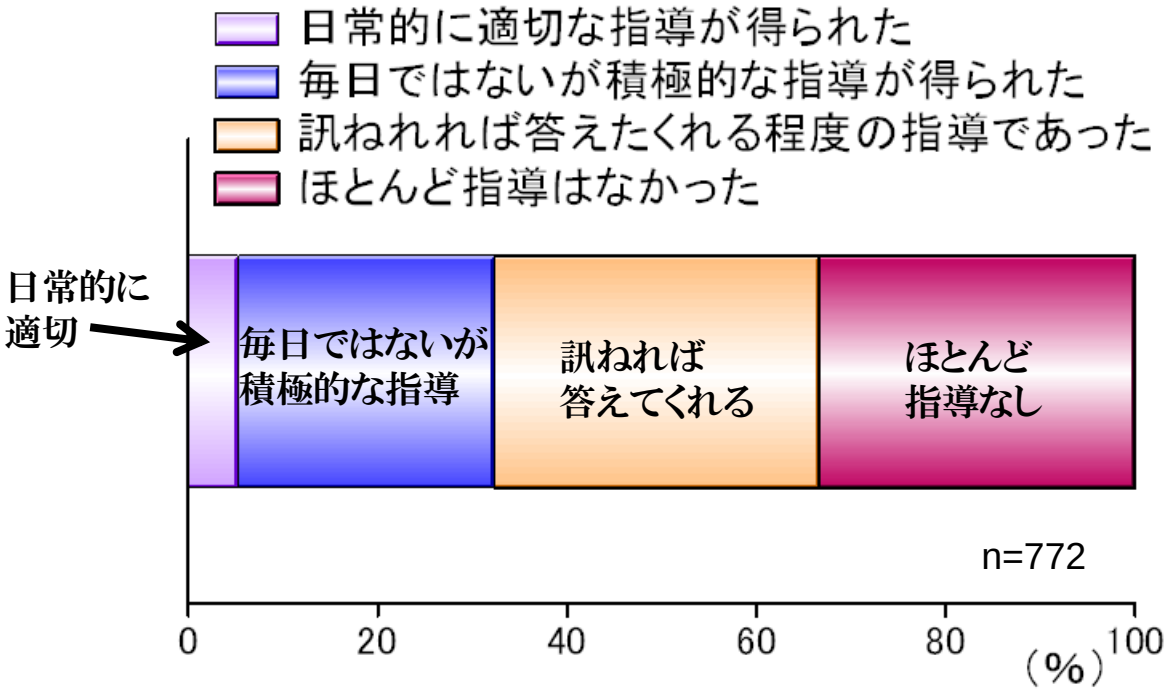


指導薬剤師以外の薬剤師からの指導はあったか



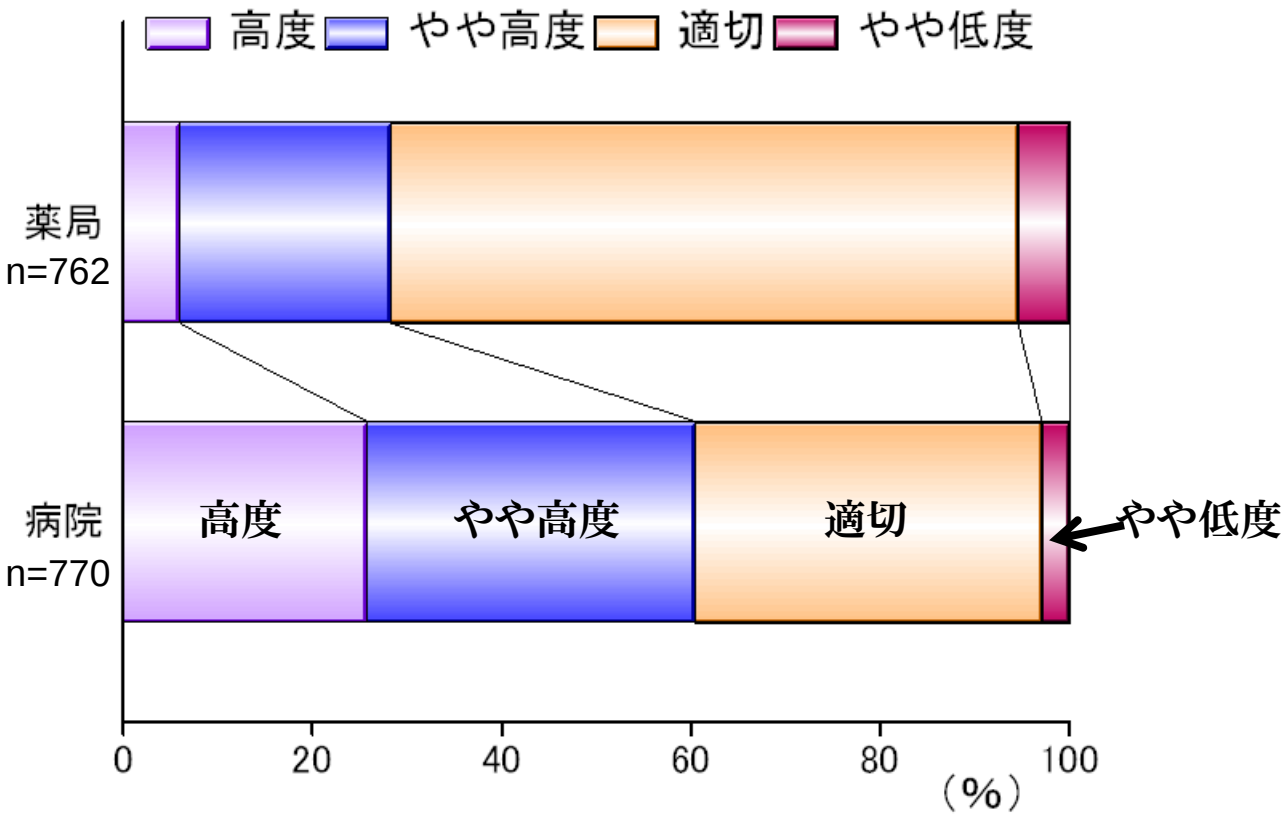
実務実習が有用でなかったと回答した者の実務実習の内容に対する回答

6年制課程卒業薬剤師

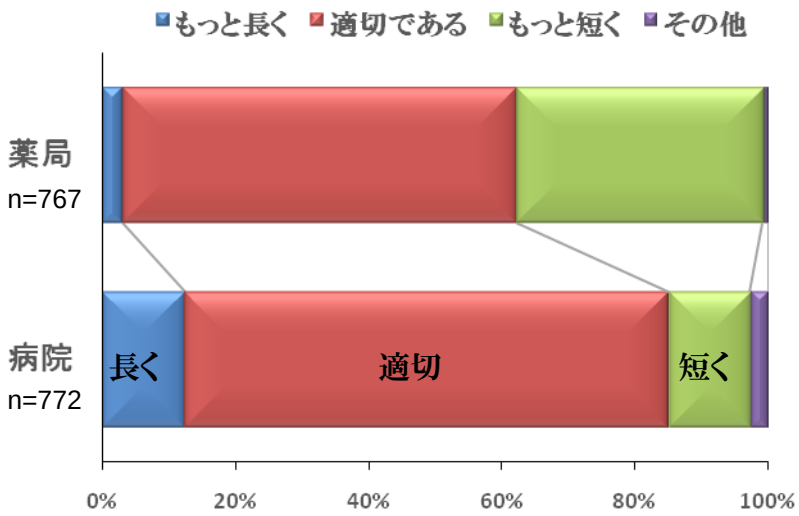


病院実習において医療スタッフからの指導はあったか

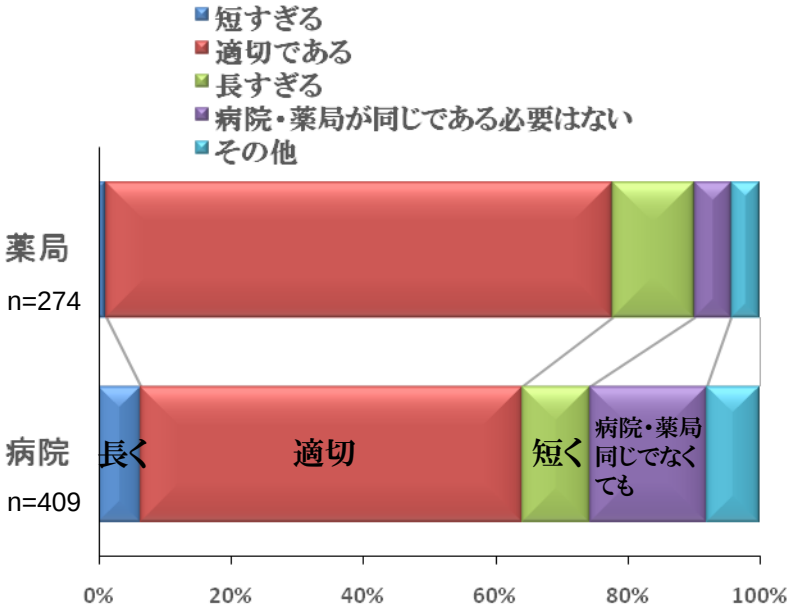
6年制課程卒業薬剤師



実務実習先の水準は（自分の知識・技能から判断して）

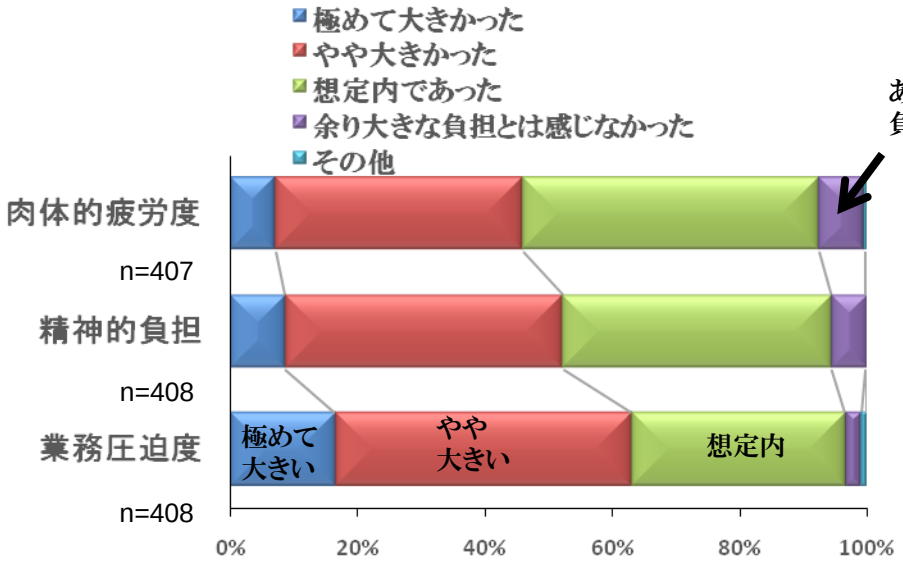


6年制課程を卒業した薬剤師

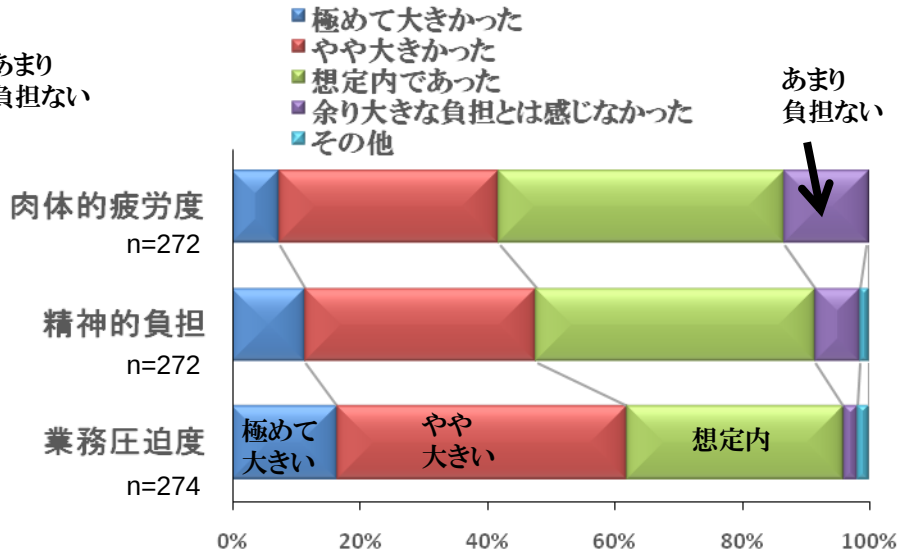


認定実務実習指導薬剤師

病院・薬局実務実習の期間に関する意見

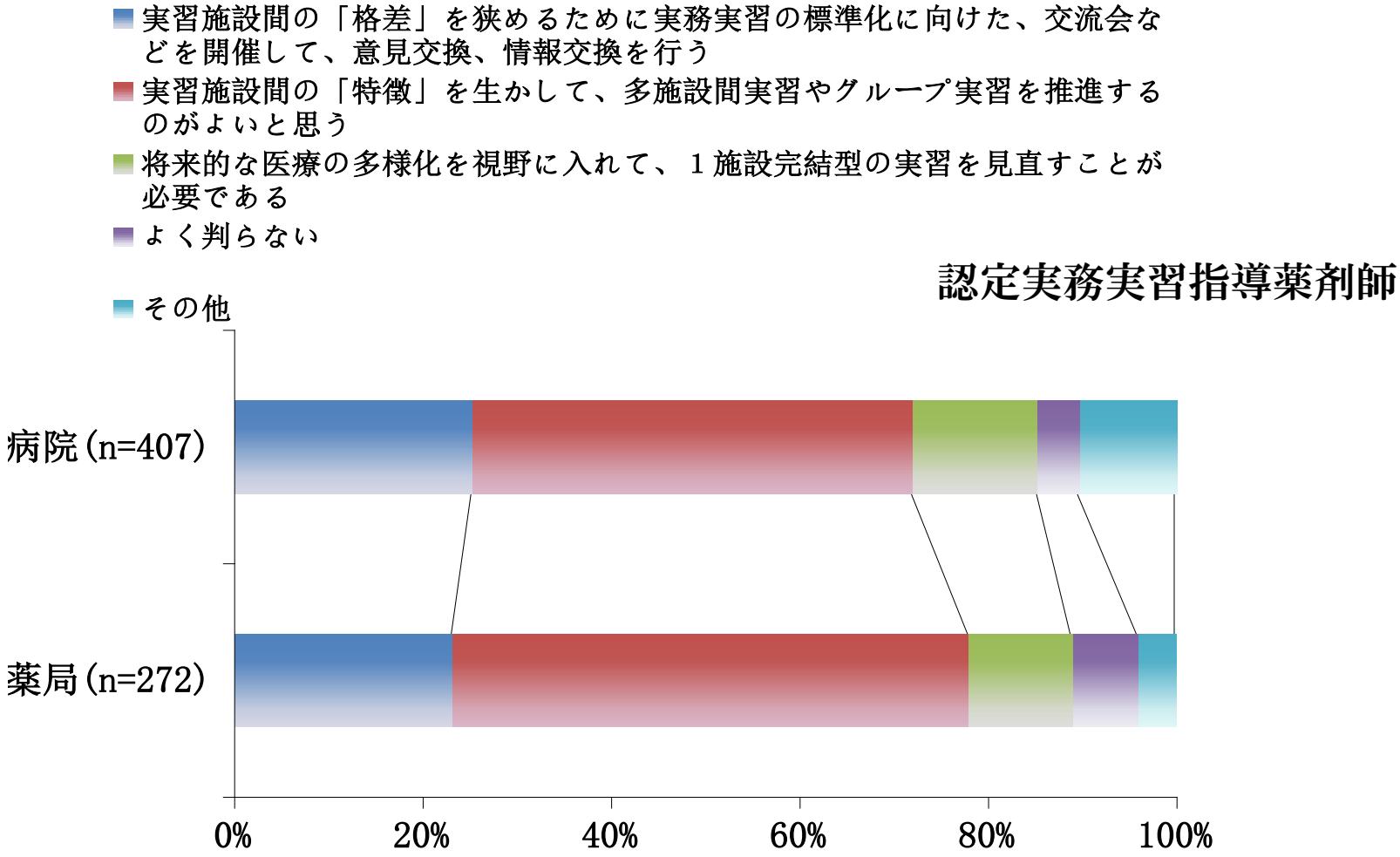


病院



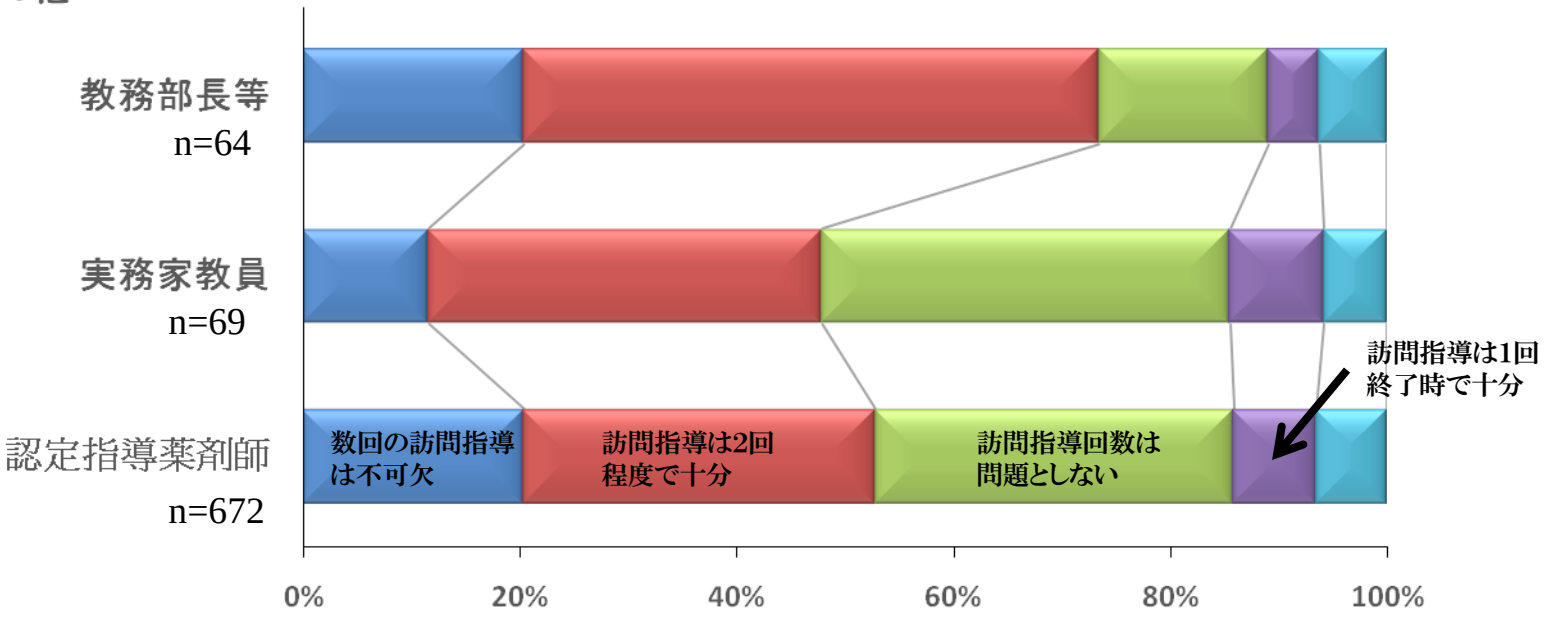
薬局

病院・薬局実務実習の本来の業務に及ぼす影響

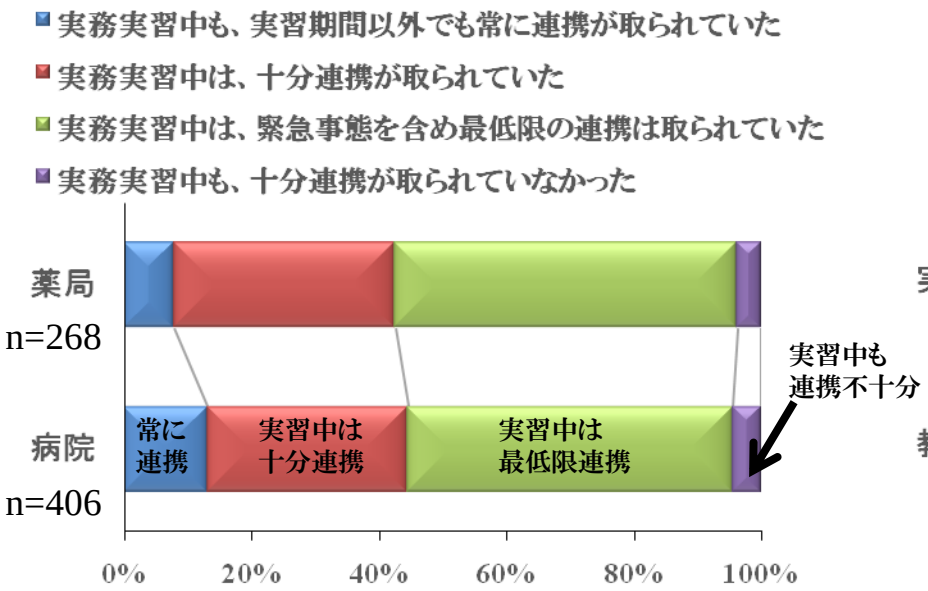


現在の病院・薬局実務実習は、実習施設の規模や性質によって、実習内容や項目、教育深度に差があるという意見について

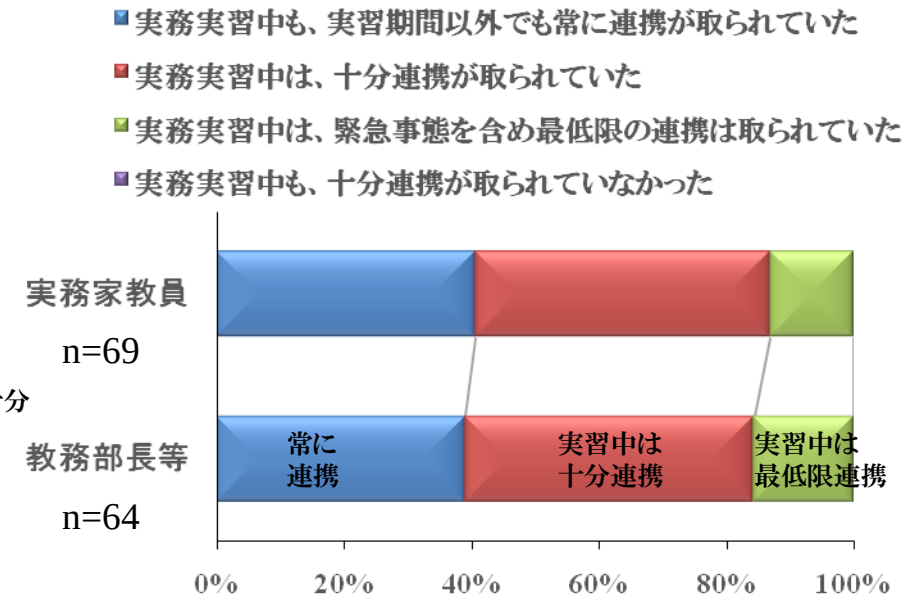
- 実務実習の進捗状況や課題の修得状況を把握し、最終的に学生の総括的評価を行うためには、大学からの数回の訪問指導は必要不可欠である
- 実務実習の進捗状況や課題の修得状況を把握するだけならばWEBを活用しても行えるので、総括的評価を行うための訪問指導は、多くても2回程度で十分である
- 大学からの訪問指導は、実務実習の進捗状況や課題の修得状況を把握し、最終的に学生の総括的評価を行うためのものであるから、敢えて訪問回数は問題とはしない
- 実務実習の進捗状況や課題の修得状況等を、WEBなどを利用して大学に常時連絡しているのならば、大学からの訪問指導は実習終了時の1回で十分である
- その他



実務実習中の訪問指導に関しての意見の比較



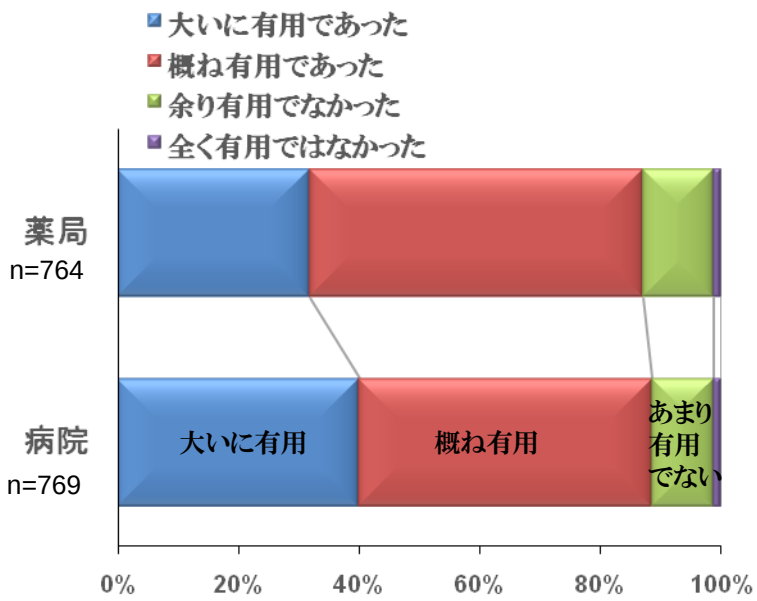
認定指導薬剤師



実務家教員・教務部長等

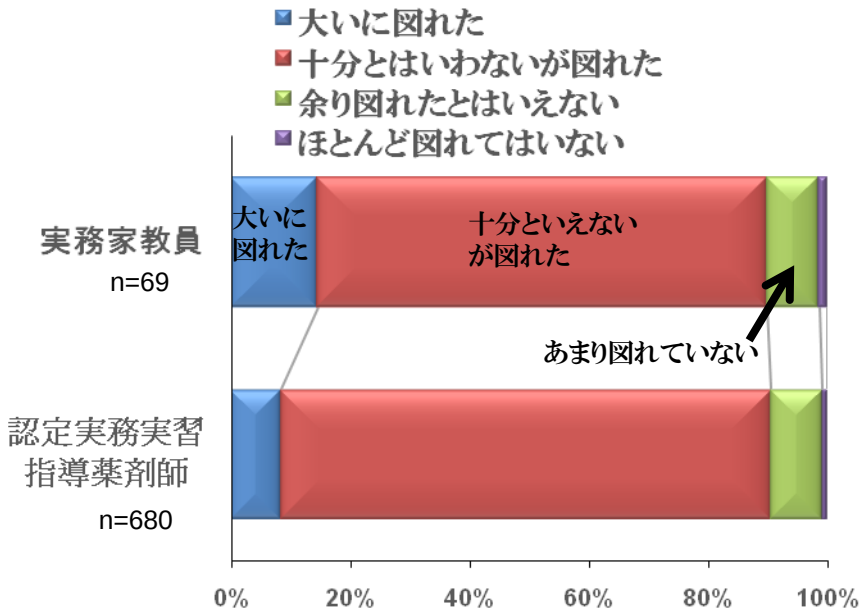
大学と実習施設との連携に関する比較

実務実習は有効であったか



6年制課程を卒業した薬剤師

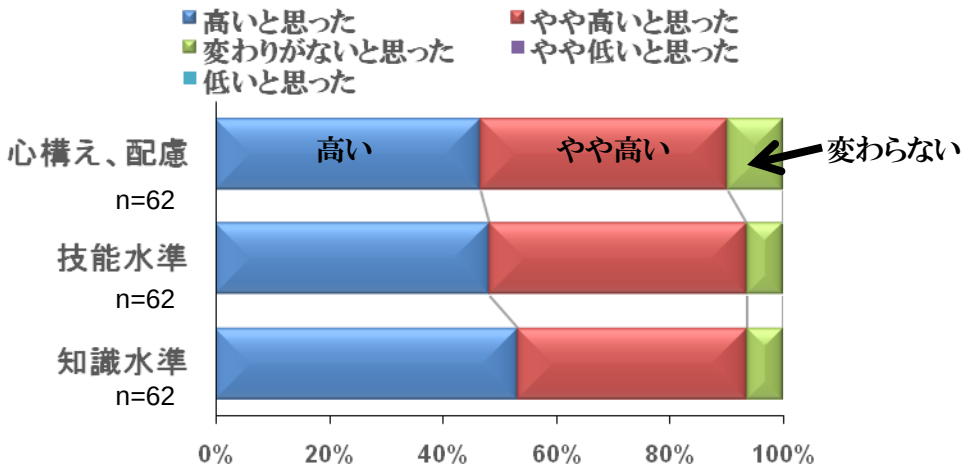
学生の医療人としての資質向上が図れたか



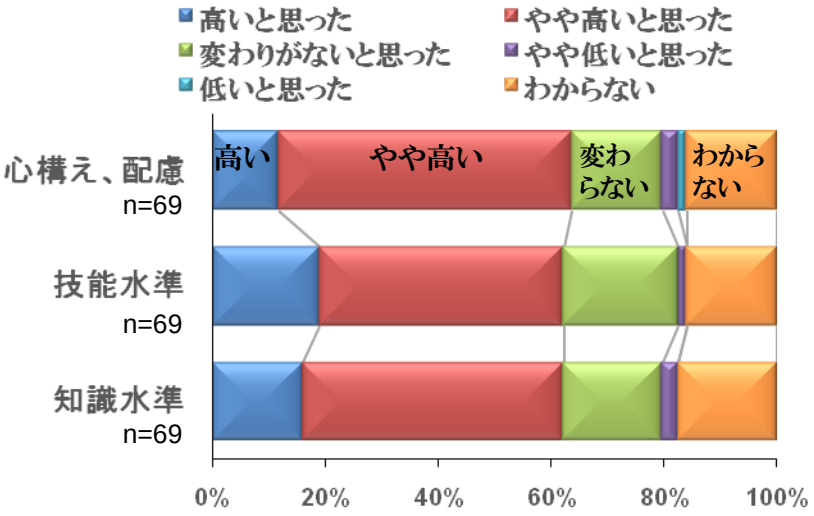
認定実務実習指導薬剤師
大学教員

病院・薬局実務実習の効果

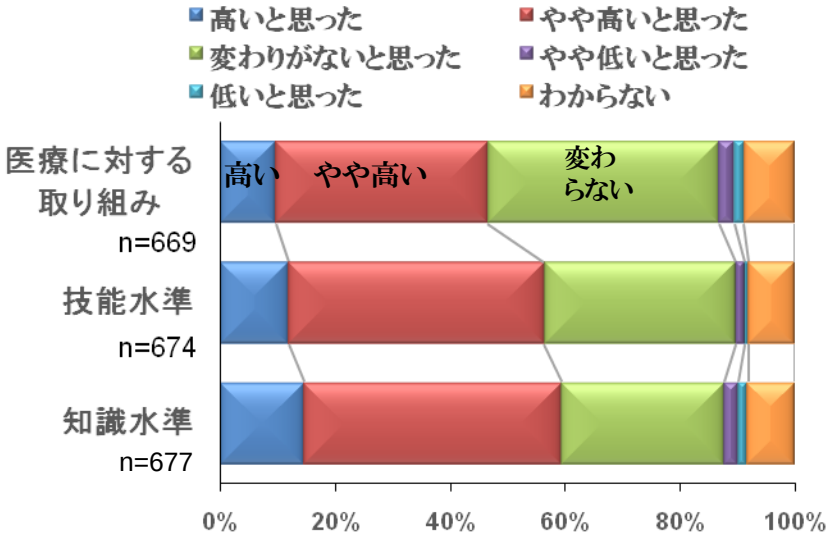
学生の資質向上が図れなかったとの回答の根拠として、学生の質の問題と共に、指導薬剤師自身にそこまでの指導能力がないとの意見があった。



教務部長等



実務家教員



認定指導薬剤師

6年制課程を卒業した薬剤師と旧4年制課程を卒業した薬剤師の資質に関する比較